

松本参与との意見交換会（中信地区）

日 時：平成 29 年 4 月 13 日（木）午後 1 時から午後 2 時 40 分

場 所：松本合同庁舎

参加者：35 名

概 要

[主な意見]

【新美術館の理念、コンセプト関連】

- 長野市は中信地区からは比較的近い。県都である長野市に新しい県立美術館ができることはうれしい。
- 善光寺と美術館では行く目的が違うので、単純に来訪者数で比較しても意味がない。美術に関心がない人に来てもらう方策を考えることが必要である。
- 子どもの関心は年代によって違う。新美術館はそれぞれの年代にあった場所であってほしい。
- 美術館は新しいものを紹介する場でもある。子どもや若者は新しいものに興味を持つので、美術館のそのような面も大事にしてほしい。
- 県内美術館と連携することはよいこと。新美術館の展覧会が、松本市美術館や飯田市美術博物館など県内の美術館を巡回するようにできるとよい。
- 新美術館は、次世代育成を全県に展開する拠点になってほしい。そのために、子どもたちのアトリエや展示施設をつくってほしい。県内美術館とネットワークを結び、新美術館の次世代育成支援の活動を全県的な活動にしてほしい。
- 県内の小規模美術館では、学芸員が 1、2 名しかおらず、研修会があってもなかなか参加できない。新美術館には、小規模美術館の学芸員の支援をお願いしたい。また、県内美術館の展覧会企画についても新美術館の学芸員に支援してほしい。
- 新美術館には、いつでも触ることができる作品を展示してほしい。健常者であっても作品に触ると新たな発見がある。ぜひ検討してほしい。
- 信州ゆかりの作家の支援として、10代・20代の若手作家への支援に力を入れてほしい。

【施設整備関連】

- よい美術館をつくっても、多くの人が行かなければ意味がない。善光寺を訪れた

人が自然に美術館に足が向くように善光寺の近くからエスカレーターで行けるようにしたらどうか。

- 学芸員は収蔵品がなければ研究ができない。しっかりとした収蔵庫が必要である。
- 県民ギャラリーは、広さはもちろんだが、使いやすさを考えてつくってほしい。
- 美術県展は県民である美術愛好家や日曜芸術家が作品を展示・鑑賞できる大切な場。美術県展の作品を展示できる環境に配慮してほしい。
- 基本設計の段階でもこのような県民の意見を聴く場を設けてほしい。

【運営関連等】

- 展示室の使い方として、常設展示室は企画展示室としたほうがよいのではないか。
- 県内各地の美術館はどこも収蔵庫が足りない。信州に残しておきたい作品がある場合、新美術館で収蔵できるようにしてほしい。県立美術館として、そのような裏支えがあってもよいのではないか。
- 基本構想に示された県民ギャラリーの広さでは、美術県展の開催は難しい。美術県展の際には、企画展示室も貸してもらえそうな柔軟な運用をお願いしたい。
- 大学の学生や教員にも新美術館の整備に関心を持っている人が多い。平日の夜などなるべく集まりやすい時間帯を選び、より多様な意見が重なり合う場を設けてほしい。

(以上)